



主任コラム6月号

主任 澤井 良子

先日、自主研修として東京の保育園を見学させていただきました。

見学園の中で特に印象的だったのは、「子ども達が自分で選ぶ」ということを、とても大切にされていた点です。例えば、遊びや活動が一つに決められるのではなく、自分で選べる、環境があり、製作・積み木・ごっこ・外遊び……。どれもが、子ども達がそれぞれに「いまやりたいこと」に向かって遊び込んでいました。大人からみると、「それぞれが好きなことをして大丈夫なのかな？」と思われることもあるかと思いますが、“揃えること”よりも「何に興味をもったのか?」「どう関わろうとしているのか」「どんな気持ちで遊んでいるのか」という一人ひとりの姿を丁寧に保育することが大切であり、子どもの姿は毎年違うので「〇歳児だから例年通りに」ではなく、「この子は今何を感じているのだろう」「次はどんな環境が必要かな」と、子どもの姿を通して、保育士同士で話し合い、子どもの姿を共有されていました。そして、0・1歳児では、“安心できる大人との関係”を何より大切にされており、今の時期では、「まずは安心して過ごせること」「自分の思いを受け止めてもらえること」が、その後の遊びの挑戦に繋がっていくという考えが、とても印象に残りました。保育はすぐに結果が見えるものではありませんが『自分で決める経験』『認めてもらう経験』『失敗しても大丈夫と思える経験』を乳幼児期から積み重ねていくことで、子ども達は少しずつ“自分で考える力”を育てていくのだと改めて感じました。今回の研修を通して「大人がやらせる保育」でなく、“子どもが自分でやってみたくなる環境”を整えることの大切さを、改めて学ばせていただきました。4つの園を見学させていただいたのですが、どの園も目指すべき子どもの姿や大切にしているのは、ながさわ保育園が実践している保育と同じ「子どもが自分で考えて選択する」という主体性の部分です。見学で学んできたことを、自園の職員と一緒に「子どもにとって大事な環境」や、「育てていきたい姿」など見直せることを、対話を通して実践していきたいと思います。

さくらしんまち保育園



橋本りんごこども園



みんなのトッポこども園



見学させて
いただいた園さん

せいがの森こども園



5月23日(土)に、令和7年度の卒園児を招いて、夏祭りでする出店の1回目の作戦会議を行いました。照れながらも近況を話したり、「小さい子が楽しめるかな?」と考えたりする姿に、子ども達の成長を感じました。卒園しても帰ってこられる場所であることを、私達も嬉しく思っています。